施策の方向	回答内容
1	私は今団地に住んでおりますが、近年で3件の老人の孤独死(死後数日経過してからの発見)がありました。福祉活動の情報を提供表示することは大切なことですが、実際に利用してもらうのは難しい問題ですよね。本当に支援が必要な人ほど、他人に家に入られる事を嫌う人が多いのも現実だと思います。支援する側の情報提供もこれからは必要になるのではないでしょうか。実際に来る人の写真、名前入りの名簿や支援団体の経歴など作成し、高齢者宅を訪問し、担当者が顔を見せて安心して利用して貰えるようにすることも必要だと考えます。
1	問題点の共有、個人的な情報ではなく、近所隣りで共有・自治会等での可能な情報を把握する。町内会等の町内での情報の共有。他人のプライバシーを守りつつ、かつ可能な情報の開示とそれの活用。身近にどのような問題があるのかを知ることが、現状では難しい。問題を共通のテーマとして取り上げ、対策に時間をかけて論議・納得した上での実行。手順の明確化と専門家等の指導を受ける。三日坊主は絶対に避ける。
1	自分の住むアパートでは20世帯近くあるのに挨拶すらしない方達がたくさんいます。偶然顔を合わせても気付かないフリをされるのです。とても寂しいです。近所付き合い、挨拶ですら出来ない現代(とくに30代までの若者)に浸透させるのは、とても大変だと思います。現在自治会の有無も不明ですし、地域の催しの情報すら入りません。まずは近所の情報を全世帯に行きわたる仕組みづくりから始めてはどうでしょうか。
1	福祉活動が行われているかどうかすら、よく知りません。10年間ひとり暮らしをしていますが、現在住んでいるアパートの大家さんはマメに管理をせず管理会社の不動産屋さんも、頼みごとをしても聞いてくれない。こんな状況で、困った時はどうしたらいいのかわかりません。近くに身内も知り合いも居ません。もっと情報が欲しい。
1	誰にでも目に留まるような、広告、市報のようなものや、看板、ポスターなどで、アピールする。今の時代、お年寄りや子育て支援など、必要だと思う。特に、子供がいても、親が仕事や気分転換のような場に出ていけるような、支援制度、幼稚園、保育所の人の足りないところの手伝い、補助など、子供の安全性を高めための、支援など必要な場はたくさんあると思う。
1	他地域からの転入なので、地域の情報が欲しい。その情報の中で、ネットや電話で内容確認がしたい。以前参加しようとしたら、ファックスで申し込むように言われたが、自宅にファックスがないので、「必ずファックスで」と言うのは考えて欲しい。(コンビニで10円くらいでしょう？と言われたが、50円かかります)
1	浸透策として、地域の方々に活動の必要性を訴えることと広く募集を掛けること。手を挙げる人は少ないと思うが、必ず参加を希望する人は現れると思う。地道にやっていくことと、活動を広くPRしていくことが、大切だと思う。正直、自分自身、地域のニーズは分からない。それを橋渡ししていく市の担当部署、社会福祉協議会は、重要な役割だと思う。
1	住んでいる地域に、どれだけ必要とされている福祉活動があるのかが分からない。地域住民がわかり易い情報(福祉活動)を、公表・提示できる環境作りが必要。子育て支援は、他の地域とは明らかに劣っていると思う。利用し易く、わかり易い情報提供が必要。福祉団体任せや、行政不参加的な雰囲気があり、とても不安。
1	自治会からのお知らせや回覧板もよく目を通さずに回したり、新聞を取っていない為、活動内容をはじめ、支援者を募集していることを知りませんでした。よく利用する銀行ATMやコンビニ、スーパー等でも、もっと地域福祉活動の支援や相談窓口が設けられていることを訴えてみてはいかがでしょうか？
1	私はマンションに住んでいるが、将来的には居住者の高齢化が進みお互いの助け合いが必要になってくると思うので、今から何か自分にできる範囲で支援に参加することは有意義と思っている。ただ、具体的な方法や対策が分からないことに加えて、日々の生活に追われている状況では実現できるかどうか・・・・・。
1	市・区の地域福祉計画・活動、および社会福祉協議会の活動に対し、市民がそれら活動に協働したり、また享受して初めて、意味のある福祉活動になるのであるから、それら計画・活動を市民の末端まで浸透させるすべきで、自治会、老人会、子供会など、地域の既存組織の活用によるPRを図るのが効果的である。
1	まず、広報が必要だと思います。Q11の千葉市社会福祉協議会地区部会が、何の活動をしているのかよく分からず検索したところ、ボランティアセンターを持つ組織だと初めて知りました。個人的には、シルバー人材センターの方に家事支援をして頂いて助かっていますが、これは書籍から情報を得て利用を始めました。
1	日頃の活動を公開し、こんな人達がいることを認識できる広報活動(掲示など)で、ひとり暮らしの人達が信頼できると思える環境を、地道に作っていくことだと思う。生活支援、緊急時の支援が大切です。
1	地域福祉活動の活動内容等が全く知らない。どのような活動に参加したらよいかわからない。千葉市でそのような活動をしているのですか。もっと活動内容又地域活動にどのように参加したらよいか、どこに行けばよいかわからない人が多いと思う。
1	身近な支え合い・助け合いの活動があるのなら、広報紙、情報誌などで知らせなければ、地域に浸透するとは考えにくいです。また、町内会や自治会にもこのような活動があることを知らせ、回覧板などでも知らせて欲しいです。

1	身近な近所の方とのお付き合いを円滑にすることから始まるように思います。また、地域の人にどういう支援が出来るかを繰り返し広報することが必要だと思います。支援としては今行われているような事以外は思いつきません。
1	情報とそれを伝達する手段が必要。私自身、ボランティアやNPOや寄付などにすごく関心があるが、実際どうやっていいのか分からない。よく行く身近な図書館や駅などに、どういった活動があって、どういったボランティアを求めているのかがわかる掲示などがあれば、すごく良いと思う。
1	小学校などに地域の方々を呼んで、活動している人たちを紹介したり　地域みんなでやろうと言う事を伝えたりすると　親も感心を持つと思う。公民館や集会所など、利用者がいない時に開放日を決めたりしたら、年齢も様々でおしゃべりしたりコミュニケーションの場を作れると思う。
1	助け合い活動の行政による周知活動と、社会的身分の保証が必要だと感じます。社会的な身分の保証が徹底していないと、支援活動も浸透しにくいし、信用して任せられないと考える人も多いかと思います。
1	自治会・町内会等を通して、みんなが困っている現実を情報共有し、どんな支援が必要か考えていくことが必要だと思う。また、各人が負担にならないようなことから地域社会に貢献できるような環境整備も必要かと思う。
1	支援を希望する人の掲示板があればよい。区役所や区役所のホームページに載せてくれたら見る。みつわ台病院は、ボランティアの方は無料で人間ドックが受けられる。ボランティアをしたら、このアンケートのようなチケットや区役所の食事券が貰えたら嬉しいです。
1	支えあう人、支えられる人、相互の自立を大切にし干渉しすぎず公平である為に、必要な情報の開示を。知らない事には何も身動きが取れず、時を見過ごします。手遅れでは済まされないことも起きるでしょう。子供の非行や思いやりの有る行動の為に地域参加を年少時から出来ると良いと思います。
1	「困っている人は、身近に相談できたり手助けしてもらえるんですよ！」という内容のポスターを、身近なスーパーに貼れば、口コミなどでも浸透するのでは？　金額も明確に「無料です」とか「〇〇円」などの記載も重要かと思います。
1	広報誌等で地域福祉活動についての呼びかけ、支援の要請等を行うとよいのでは。私自身、メンタルケア心理専門士というカウンセラーの資格を取得しております。支援にご協力できる機会を作っていただければと思います。
1	現在行われている活動（どういう人たちが、どのようなことをしているか、具体的に）を広報などに紹介。また、実際に活動したいと思っている人たちにも、どのようなグループがあるかがわかる窓口（連絡先）などが、わかると良い。
1	区役所や公民館やスーパーの掲示板などを利用して、地域の活動状況や他の地域の成功例など細かに頻繁に情報を提供したら良いと思う。インターネットでもわかりやすく簡単に見られると良いと思う。
1	活動内容を、駅前やショッピングモール、図書館や学校、地域新聞などでアピールしてもらいたい。みんなが良く知り、安心して参加できる雰囲気になれば、活用する人も増え、輪が広がるのではないでしょうか。
1	活動の必要性、及びメリットの周知。活動により地域の安心・防犯・生活しやすさのレベルが上がり、地域全体の価値向上につながることの啓蒙。地域の自発的活動が、行政サービスの呼び水となる仕組み(活動主体があれば行政から援助される など)があると良い。
1	街中でホームレスの姿をみかけることがありそれらの人が何とか普通に生きていけるような活動をするにはどのような方法があるか又、現在市として何をその人たちにしているのかそうしたことの情報を出してほしいと思います。
1	回覧板などで周知する。母親と子供が同時に病気になった場合、身内の者も援助に来てくれず、二人で一日中寝込んでいた時があった。コンビニ弁当でも良いので、買いに行ってくれる人がいたら良いと思う。突発的な出来事にも対応してくれるボランティアがいると助かる。
1	まだ幼い子供をもち、全くそのような活動に参加したことのない私には具体的なイメージがわきませんが、まず、どんな活動があり参加するにはどうしたらいいのかを明確に知らせる場が必要だと思う。子育ての手が離れたら…と関心はあります。
1	まず、どのような支援を必要としている人が地域にいるのか、という情報が必要だと思います。この地域で、例えば買い物の代行を必要としている人は何人、必要な人数、頻度、求めらる要素、条件などが分かれば、「それなら私でもできる」と手を挙げることができると思います。
1	ボランティア養成講座のような講座を開いて、一定のスキルを持った人材登録制度を設けて、さまざまな支援要請の相互情報提供を市役所などの公的機関で行い、実質的な活動を推進する施策が必要と思う。
1	どんな活動が行われているのかを、日常的に分かるようにする。有線放送やインターネットの特定のホームページ等で、いつ、どこで、どんな活動が行われる予定で、どんな人が必要かを伝え、参加を呼びかける。
1	どの程度してもらえるのか・・どこに頼んだらよいのか、利用するまでの手続きなど・・分かりやすくならないと利用するまでには到らない気がします。利用するまで時間や手続きが長くかかるなら民間で・・となるでしょうし・・。

1	どのような活動グループがあるか今いち分からないので、色々な活動グループが積極的にチラシなどでアピールしないと、結局、活動してる人とその回りの人で固まりができ、なかなか参加したくても入れない人がいると思う。集会所は使う人が限られて、使用して無い日が多くもったいない。
1	1.支援を申出たくても負担が大きくて無責任な結果と なっては悪いので申出かねている人が多いのではな いでしょうか。2.上記の懸念を払拭する為にも、どんな支援方法がある のか広く知らせることが必要。
1	露出されている情報が全くないので、先ず存在することをわかるようにすることが必要だし、携わりたい人向けに行政・民間が共同支援をし、窓口を広げるべき。
1	福祉活動は地味なイメージ、知らない人が多いと思われるので、テレビなどメディアに広告を出し、明るいイメージに知ってもらう。
1	被支援者の情報発信力が弱く、かつ、支援者の情報網とズレていることが問題かと。アナログで聞き取り、ネット上にきめ細かく上げるしくみができれば、機能しそうな気がします。
1	町内会の回覧版・広報誌を毎月出す。どんな町内にするのかを、会長が何度も主張する。子供の文章・絵画を広報誌に載せる。
1	町内会などが中心となって地域福祉活動に対する呼びかけ、働きかけをするとともに、近所での助け合いがしやすくなるような町づくりのために、行政からも積極的な提案、支援が必要だと思う。
1	町内会でどのような支えあい・助け合いの活動をしているのかを、住民に解らせるように印刷物を配る。一人暮らしの人や子供がいる人には、困った時に連絡する連絡場所や連絡方法を知らせておく。
1	地域福祉活動の内容など、情報を分かりやすく伝えること。個人が抱え込むのではなくて、企業や学校や自治体や国が後ろ盾となって、活動を広めると良いのではないだろうか。
1	地域住民の意識向上が必要。 現状では、町内会活動に参加する意識も低いのが現実。支えあい・助け合いの活動の重要性に関する啓蒙活動が更に必要でしょう。
1	誰に何をどう支えてほしいのか、どの程度助けてほしいのかをもっと具体的かつ、明確にアピールする必要がある。
1	大々的な広報で、認知してもらう。気楽に参加できる取っ掛かりみたいな？第一歩みたいな？ことがほしい。
1	千葉市が強力なリーダーシップを発揮し、町内会・自治会を通じて啓蒙活動を継続的に実施することが必要だと考えます。
1	千葉に越してきて五年目だが、集合住宅なので広報以外には情報があまり無いというのが実感。もっと職場や、ショッピングや食事などで人が集まる場所に情報を提示すれば良いのではないかと思う。
1	情報管理を厳重にするという前提で、町内会やマンションの管理組合に高齢者の情報を集約しておく。
1	情報があまり伝わりにくい。そうゆう活動があっても実際利用していいのか不安になる。パンフレットのようなものがあればわかりやすい。
1	情報。情報が全くといっていいほど無い。また、町内会は排他的で市議会議員の腰巾着の寄り合いと化していて機能していない。
1	小さい自治会のため、周辺の助け合い活動は不活発だし、さらに広域の活動情報もほとんど入らない。市の広報紙などを通じて、情報がほしい。
1	助け合いの活動など、市政だより等で広く市民に知らせ、気軽に参加しやすい環境を作っていただければ良いのかな。と思う。
1	自分で立ち上げるのは難しいし大変なので、既にあるサークルなどがもっと広報に力を入れて、初めての人でも参加しやすくして欲しいと思う。
1	自治会に入ってない人にも情報が伝わるように、地域の掲示板などが公園や道にもっとあると良いと思う。
1	自治会、社会福祉協議会などで、積極的にボランティアの募集をしたらいいと思います。手助けしたいと思っている人は、結構たくさんいると思います。
1	一番手助けが必要な一人暮らしの高齢者等だと、余計に情報が得ることが出来ないので、直接書類をポストに入れるなどしたら、見てもらえるかなと思います。
1	・行政による広報・定期的な集会小さな子供がいるので、特に病気時など緊急時に、すぐ援助していただけるような支援があるとうれしいです。
1	両方の立場で、必要な情報がわかりやすく手に入るようにすること
1	目につく所の広報活動。
1	分かりやすいような掲示やお知らせをする。
1	福祉活動がやり易いような、受付相談等の窓口の設置や広報活動。
1	情報など広報活動
1	情報が受け取りやすい環境があるとよい。
1	情報がみんなに知れ渡らないとダメだと思います。
1	情報
1	市政便りなどで、様々な支援の紹介と参加募集の記事を載せる。
1	市政だよりにいろいろ掲載してください
1	広報などで伝えていく方法、また駅前やスーパーの広場で催事を行って伝えるなど

1	広報などで多くの人に周知する
1	広報。 安くちょっとした家事などを頼んだり付き添ったり、お年寄りの見回りは必要。
1	よい事も悪い事も情報を公開して欲しい
1	もっと周知したら助かる人がいると思います。子育て支援など、知らない人は活用できません。
1	もっともっと市で広報したら良いと思います。なかなか、どんなことをやっているか分からない
1	もっと、広く宣伝したほうがいいと思います
1	メディアを使って広報。ちらし
1	ポスターを駅などにはる
1	とりあえず回覧板で周知を何回も実行する
1	どの様な手続きで行えばよいかなどのサポートが欲しい。
1	どこで広報しているかわからない。新聞は自宅購入していない。駅で購入している。
1	どこで どのように活動が行われているかの情報提供。利用しやすい雰囲気。
1	チラシなどでどんな活動をしているのかを知らせると、浸透すると思う。
1	PRが足りない。知られたくない個人情報が拡散するおそれがある。
1	Q13のaをもっと充実する。これで受け手が手を上げやすくする。
2	地域福祉活動は最も身近な自治会や町内会単位で行うことが一番良いと思うのですが、困っていて支援を必要としている人や家族がいても、遠慮したり恥と思ったりして周りの人に知らせないので、ご近所の方の支援をすることはあまりないように思います。支援をしている方はボランテイアセンターを通して、又は 養護施設・介護老人施設等を通してボランテイア活動をしていると思います。私のその中の1人ですが。支援の必要な人が 声を出していえるような環境になる・・むつかしいことですが・・と思います
2	「どのようなことを」「どこで」やっているのか、知る手段が少ない。手助けをしてほしくても、どこに連絡すればいいのかわからない。特にお年寄りは、インターネットで調べられない人が多く、困っている人が多いように思われる。市と活動団体のネットワーク網がしっかり作られ、どこかしらに連絡すれば自分の地域の活動団体につながる、というようになれば、安心して連絡することができるようになるのでは。
2	夫婦そろって都内フルタイム勤務していると地域の方々と触れ合う機会も少なく、産休＆育休を通じてはじめて知った地域福祉活動が殆どといった現状です。もっと×2、身近で利用し易く、また気軽に相談＆依頼し易い環境（状況）整備をお願いしたいです。例えば、利用時間の延長、相談窓口の明確化（広報）など是非よろしくお願い申し上げます。
2	身近な地域でも、同じ町内会ではなく、口の堅い人で、相談事や、助け合いができた方がいいのではないでしょうか。お年寄りだけでなく、一人暮らしでいる人も支えが執拗なときもあると思います。
2	まず、情報が無さすぎると思う。誰に頼れば良い（どこに連絡すれば支援を受けられる）のかわからないから、支援してくれる人（団体）が、定期的にポスティング等の手段で連絡先・活動内容を知らせることが必要だと思う。身近な公民館等で、誰でも参加しやすい雰囲気のサロンを開く。
2	どこに何をお願いすればやってもらえるのかが分からない、ボランティアに参加したいと思ってもどこに聞いたらいいのかわからないので、地域で福祉の浸透ということがあまり想像出来ません
2	本当に困っている人が一人で抱え込まないように、わかりやすい相談窓口を設ける。ただし、過剰な支援にならないようにすることも大事だと思う
2	地域福祉活動の情報誌発行や簡単な冊子の配布(保管できるように)を行い、興味のある人、支えてもらいたいと思った人がコンタクトしやすい窓口を周知する。
2	どのような活動がどのように行われているか、また、困った時にどこに相談をしたらいいかがすぐわかるなど、人々がそれらの活動を周知できるようにする必要があると思います。
2	いつでも気軽に参加できてやめられる環境がととのっていたらいいのではないかと思います。地域福祉活動について一括して相談にのる窓口などがあるといいのではないでしょうか。
2	受付窓口が固定されていること（常設）
2	困ったときに直ぐに相談できる窓口
3	近所同士の気づきや、支えあいをあまり表には出さずに、何気ない会話や近所付き合いから、一人暮らしのお年寄りなどには、何気ないこえかけなどをそれとなくやっています。それと、そういう方々が集まってお茶が飲めるような井戸端会議的な場所を設けるのが必要と考えます。独居老人と、母子家庭、父子家庭がお互いに助け合ったり、周りの住民が支えてあげたり。いろいろやりたいことはありますよね。
3	自治会やボランティアの自主的活動、近所づきあい以外に、行政がこれらの団体・個人とつながった恒常的な活動を行っていく場を提供することが重要だと思う。例えば、公民館やコミュニティーセンタで、1週間に1・2回、曜日と時間を決めて、助けが必要な人が来て、相談できたり助け合い活動をしている人が集まっておしゃべりができる場を提供すること。
3	ミニ公民館をたくさん作って、そこがコミュニケーションの場・情報交換の場などになれば、誰もが気軽に参加出来ると思います。現在、マンションに住んでいますが、プライバシーの関係？で、ご近所付き合いは挨拶だけです。 また、道路も『まともな歩道』が無い千葉では、車椅子での通行は困難でしょう。
3	地域の人たちの繋がりが希薄になっているように感じる。地域主催のお祭りなど、地域に住む人なら楽しくコミュニケーションできる場が予算の関係で減っている。行政からの支援をお願いしたいです。

3	自分がすんでる所はご近所さんとの交流がいい感じです。子供たちが小さいため、お互いにできることを助け合っていていい環境で生活できています。住む環境により活動が変わってくると思います。お年寄りなどは公民館などでの交流からはじめるといいでしょうね。
3	普段から挨拶をして、身近な出来事で話をする（昔の井戸端会議）、マンション等の会議室を無料で貸し出せるようにする（同好会が開催しやすい場と情報提供）。
3	日ごろから、多くの人とコミュニケーションができる場を作ること。緊急時、病気のときなどの支援。
3	誰でもふらっと立ち寄れるような、小さくても良いから談話出来るような場所を設置して、先ずはコミュニケートできるとっかかりを提供したらどうか。
3	気軽に立ち寄れる相談所があればよいと思う。近くに保健センターがあったので、ずいぶん気軽に相談にいけたが、近所になければ知らないし頼らなかったとおもう。
3	学校の空き教室を利用して、子育てや育児のサークルや高齢者のサークルを日課とし、子供と高齢者の交流を図りながら情報を発信していく。 高齢者の認知症等の予防にも努める。
3	駅など人の目につきやすい場所にポスターを貼ったり、各地域の観覧版に案内を載せる。子育てについて話し合える場所の提供や、お年寄りの話し相手になったりなど
3	お隣の全員さえ知りません。かといって、何も無いのに声もかけづらいので自然なコミュニケーションが取れる場が欲しい
3	情報や人が集まる場所　コア
3	児童館の設置や、公民館の拡充など、人が気軽に集える場所をつくること。
4	先にQ10についてですが、「挨拶する程度」としたのは、3年間上の階のかたの顔も知らないので、違和感を感じていて、「最小の望み」として選びました。　地域の為にしている事は、社協の住民会員になったり、ジャスコのイエローレシートを「社協に入れる」ぐらいです。県外の80代の親の家に往復4時間かけて時々行っています。親はデパートでの買物を希望し一緒に行きます。考えてみると、心身の健康を保つ為には、自分の好きな事をするのは大切だと思います。専門家のかたが住民個人の話を聞き、好きな事を（思い出し）見つける手助けし…地域の社協や自治会ではいろいろな行事をやって下さっていますので、まず参加する事から始まると思います。（行事のPRをもっとお願いします。）
4	顔見知りになり挨拶が出来るまでに時間がかかりそうです。今のお年寄りは元気で健康にも気をつけていているように見えます。反面、私もそうですが他人に迷惑をかけたくない…生活に踏み入れられたくない。生活のお手伝いをするにも言葉の使い方対応の方法が難しそうです…プライドを傷付けないで。私自身も若いつもりですが、足の上がりも悪くなり平坦なインターロッキングでつまずいたり…気持ちは変わらないのに肉体的な老化は始まっている このギャップが 年寄り扱いするなという気持ちになるのかと思います…お年寄りから学ぶ生活の知恵、とてもためになります…犬の散歩で年齢差がある友人が出来て、野鳥や公園の珍しい樹木など。私的には声かけから初めてみたいと思います。配食の支援が受けられたら便利だと思います。
4	自分のほうがお年寄りよりもからだが弱いので年中は出来ないが、今も顔見知りのお年寄りをたまに訪問してお話したりしている。また、近所の子供達に声賭けをしたり、お母さんが留守のときに預かったりもしている。ただ、最近ショックだったので私が多少無理してもしてあげたとしても、逆の立場になったときにまったくしてもらえない人もいるということ。気になったので話し合ったらおそらくその人は挨拶する程度でよい、という感覚のようだ。こちらも大変な中でやっているので、そういう人が相手だと次第にむなしくなってくる。
4	私の子供の小学校は集団下校ではなく、子供一人一人の下校の様子をよく見かけます。信号付近では防犯パトロールのボランティアの年配の方が見守って下さっています。千葉市から登下校の集団下校を推奨し、学校では付き添いの保護者を当番制にして、尚且つ地域の方のボランティアの協力も得られれば 地域全体の他の事への助け合い、お互い様の気持ちが浸透しやすいと思います。福祉活動はまず、顔を合わせ、近所にどんな人がいるのか分かる環境が当たり前のようにすでにないと、生まれてこないと思います。
4	私は何でも出来るし、自宅の物で修理を依頼するものはほとんどない、自分で出来る。しかし、原理原則など知識の無い方（自分で修理出来ない方）からの修理は、よほどの信頼関係が無いと誤解が生じて、支援を必要としているだけでは、後日関係者からの否ぬお世話で嫌な思いをするだけが多く、善意が結果的に受け取られずに難しい。支援を必要とする方々の判断基準があいまいで、会員制のような組織の中では支援の可能性が高くなるが、不特定の方の対する支援は自分のストレスになってしまう。
4	新しく建ち始めてる住宅等も、その新興住宅のみで自治会を作るのはいいが、周辺各地区の総自治集会があれば参加。マンション・アパート住まいの人達も出入りは激しいかもしれないが、なるべく自治会に参加して回覧板を回して地域行事の参加を募ったり、今、何に取り組んでるのかがわかれば、多少は協力者も出てくるかな…。それか、中学校までの幼・保育園(所)、小学校で、年行事の1つとして地域のボランティア活動に参加する行事を作って、園・学校毎に交代に何かをする。
4	現在、我が家には2人の子供がいますが　第2子においては育児教室や出産後の育児サロンも拒否され参加できず地域においてなかなか友達ができませんでした。2人の子供がいるからこそ　地域の方々の身近な支えあいをお願いしたいところであるのに。また、育児サークルといった独立したかたちではなく　老人会のかたたちとも共同で行えるサークルがあったら　お互い足りないものが助け合えるのではないかと思う。

4	お互いを知ること。交流の場が無さすぎる個人情報保護が過度に行われすぎていて隣人が何をしている人かも分からない。つい最近も市から委託を受けたと名乗る人が家の内情を聞きに来たが問い合わせしたら市でそのような事を委託していないと言われ来た人は全く近所のひとではなかった。近隣と信用できる関係が築けるよう清掃活動とかボランティアではなく市が中心となって何か行事を行ってほしい。
4	半年前に千葉市に引っ越してきたんですが、全く近所の方とかかわりがありません。以前住んでいた地域では回覧板があったので、回覧板をもっていったときに顔を合わせて会話する機会があったのですが、今の住まいにはなし。なので、近所で誰も知り合いはいません。まず、近所で顔を会わせる機会をつくることが大切かと思われます。
4	地区・市が回覧板を頻繁に出し、どの家庭でも活動内容等を把握できるようにする。戸建て住宅に限らず賃貸居住宅にも。賃貸で回覧板をまわすことによって、隣近所の接点ができると思います。そこから身近な支えあいがうまれるのではないでしょうか？ちなみに、市政だよりを回覧板でまわしていただくと、新聞を購読いていない家庭には大変便利です。
4	地域内の小グループごとに全員が参加できる行事を、最初は行政主導で実施し、これを通じて自主活動で受けられる援助についての普及を図り、自主活動を定着させ、お互いのコミニュケーションを深めることが第一歩である。このためには、地域の公民館などを、もっと使い易いシステムに改めなくてはならない。
4	支援はしたいと思うし出来れば一番いいのだが、近所の状況も私の子供のころと違い、近所づきあいもほとんど無くなってしまった。誰が住んでいるのか分からない家もあるほど。この状況では支援や助け合いと云っても実際は難しいような気がする。よく孤独死のニュースを見るが、近所で実際に起きてもおかしくない状況である。なんとかならないかと思うが、気持ちだけでは難しい。
4	子どもが幼稚園へ通っていた頃は、毎日バス停でお母さん達が顔を合わせていたので、自然と助け合っていられました。小学生になったら、そんな機会もなく、今の子ども達は忙しすぎて（特に塾）帰宅後遊ぶ暇もないくらい。近所で親子同士が関わる時間が持てません。学校教育の質を高めて、遊びと学習のメリハリある生活が出来るようにすることも、大事なのでは？
4	最近はマンションが多く誰がそこに住んでいるかも解らない。管理組合が有るがプライバシーの侵害なので完全に閉ざされています。年に一回の総会に出てくる人も少なく何か起きた時と大変心配をしています。何か行政の方で必ずーマンションで活動のシステムを作るなどの制度を提案して欲しい。（強制的？）
4	一昔前のような、近所だけでなく誰でも声をかけ合えるような世の中にならないとと思います。他人には興味を持たないというか、持たないようにしているというか、人同士のコミュニケーションを避ける傾向にあるので、そういったそういった面が改善されれば、〇〇活動と銘打って活動しなくとも自然に行われるのではないかと思います。
4	一人暮らしのお年寄りのお宅に伺う活動も結構だと思いますが、簡単な事からしていけばいいと思います。最近回覧板が頻繁にきて面倒だなと思っていました。近所のお年よりも面倒で回覧拒否をしています。でも、一人暮らしの方こそ安否確認がさりげなくできるので回覧板を拒否しない方がいいと最近思うようになりました。
4	まず、近隣にどんな人がいるか知ることから、始まるのでそのきっかけをつくるためには、自治会の回覧板程度では、なかなか参加してもらえないので、市など役所と学校など教育機関との連携により（自治会を含む）、イベントや催し物など企画して人が集まる環境を作る事がよいのではないでしょうか。
4	お年寄りの方たちや子育て中の方たちの為の無料教室を作れば参加する方も増え、近所の方たちとの交流や生活がわかり地域活動も浸透すると思う。（例えば、月1の料理教室等、先生は近所の30から40歳くらいの人とか・・・食べ物教室は人が集まりやすいから）有償ではなく先生に対してはこのアンケートのように何かポイント制にしては？
4	地域社会の連携意識が少なくなる傾向で、なかなか難しい問題が山積していると思う。したがって向こう三軒両隣的な日ごろの身近な付き合いを深めて深化し、広げていくことなどの支援が必要かと思われる。支援というよりも、呼びかけなどで近隣の付き合いの大切さを説いて行くことが必要かと思われます。
4	幼稚園や保育園で近所のお年寄りとの交流があるとお互いに刺激になっていいと思います。また働いているお母さん達にとっても延長保育の間にお年寄りと遊んでもらえたらいろんな事が学べていいと思います。崖の上のポニョのような施設があるといいです。
4	同じ地域（近所）では、時間的、経済的、知識的にもばらつきがあり、挨拶程度の付き合い以外は難しい面が多い。ある程度時間をかけ、コミュニケーションの場つくりから始めないといけないと思う。行政がきっかけ作りをしたらどうでしょうか。
4	町丁目ごとに、助け合いの活動を行う上でのルールを作成することが重要ではないでしょうか。また、地域住民が参加し協力して行えるイベントを催し、地域住民同士のつながりを深めることも必要だと思います。
4	団地やマンションであれば住人のサークル活動のような形から始められるとやりやすいと思う。戸建のように「雨戸が閉まりっぱなし」など外から見て分かる状況ではないので、マンション内で注意が必要な人の情報を共有しておいたり、定期的に声をかけるようにするなどから始めると良いと思う。

4	正直一軒先のご近所さんの事さえ知らないのが現状で助け合いとか実感ありません。目の前に困ってる方がいればお手伝いすことは勿論ですが、このご時世基本的コミュニケーションがない以上やはり行政に音頭をとって頂くのが一番かと思います。
4	助け合いの活動以前に、まず知り合になることが必要。現在の住居（マンション）に住んでから10年になるが、いまだに住人のことを知らないのが現状。子供がおらず、県外でフルタイムで働いていると、近所の人と接する時間がほとんど取れない。
4	自分が子供の頃には当たり前だった隣近所とのつきあいが今ではほとんど見られなくなってきている。そのため、一人一人が隣近所とのつきあいを少しずつでも増やしていくことにより、支え合う心が芽生えていくのではないかと思う。
4	自治会に入れば名前や顔も分かるし、さらに集まりがある場合には積極的に参加する。でも入らない人もいるので難しい。顔も分からない、話をしたことがない人を支えたり助け合うのは地域だけでは難しい。
4	自治会・管理組合を問わず、グループでの連絡網や活動を利用しての助け合い運動が、地域に根を下ろす気がする。例えば、子供部の太鼓などの練習後、公園の清掃を一人暮らしの方と一緒に行う、あるいは、婦人部などの連絡網を通じて、安否を尋ねあうなど、試みる価値ありませんか？
4	支援する人、される人それぞれが相手を心から信頼できる関係を築くことが大切だと思う。古くからの住宅地等では互いの信頼関係が出来ていることも多いが、新たに形成された住宅地では、まさに隣の人でもどのような人かよくわからない。
4	最近は近所同士の交流がないので近所同士の交流を通してさらにその友達というように浸透していけばいいと思う。特に高齢化社会になってきているので年配の方に対する支援を強化するべきだと思う。
4	個人情報や家庭の状況など、他人に話さない。どこまで手助けして欲しいのか、お互いがよく理解して両方が気持ちよく手助けできるような環境。子供が小さいうちは、2～3時間くらい預けられる所が自宅から徒歩5分圏内にあると助かる。
4	近所付き合いが大切とおもうが、ふだんの生活では近所の方も挨拶ぐらいで助け合うなどの付き合いはありません(タイミングが合えば外泊を伝えるくらい)。自治会の活動も一部の人だけが参加するようなものでなく、参加したくなるような企画が増えれば新たな人の輪が増えてよいと思う。
4	近所でお互いが知っているような関係、自治会・学校等がもっと繋がっているような関係ができたらより充実していくように思います社会、地域がもっと福祉事業に関心を持つ事が必要になってきているように思います
4	居住している地域の自治会にすべての方が入会し、少しでも地域の方々との接点をとり、自治会側等は市などの行政からの情報等を発信するようにする。自治会を存続・活動するにあっての経費を援助すると良いと思う。
4	基本は近所の自治会だと思うし、近所づきあいを大切にしたいと思ってはいるが、現実はご近所でマンション建設に反対された方もいたそうで、私は自治会名簿に載っているだけの形でしかない。自治会主催の祭も参加して見たいがどうやって入ったらよいものか。
4	顔見知りのままだといざという時にお互いに助け合うことが出来ないと思うので、普段からの挨拶や会話が大切だと考えています。老若男女問わず挨拶等、簡単なことほど出来ない人が多いので私自身も普段から気をつけて生活していますし、友人や家族に勧めています。
4	引っ越してきて5年経ちますが、町会の集まりなども参加したこともありません。が隣近所とは挨拶以上の付き合いをしていると、私自身思っています。町会の単位だと大勢になってしまうのでブロック毎に集まりなどでコミュニケーションをとっておくべきだと思う
4	マンション住まいは挨拶程度が良いようですが、年齢が上がるにしたがい、近所の誰に頼もうか考えます。自治会の方にお願いするのが良いのかなあと、今は思っています。それには年配者の集いを定期的に行い、互いのことを理解しておくことも大事かなと考えます。
4	マンションで、隣の住人と話したこともない。こちらは別に避けてはいないが、隣のほうがかなり後から入居したので、避けているのではないかと思う。自治会もあるので入会して和合するようにするようになれば、お互い理解できるようになるのではないか。
4	まずは、近所の付き合い方から良くしていく必要がある。自治会活動に参加することが一番早いように思える。でも、自治会の会員にならないどころか、こちらから挨拶をしても無視されてしまうことがある。挨拶をして、一言二言、言葉を交わすところから始めていかないとだめかもしれない。
4	プライバシーの保護が行き過ぎて、近所というだけで人間像が少しも見えないので、手助けが必要か否か、必要ならどんなものかなど手がかりすら得にくい。行政の主導がないと個人レベルでは知り合いの範疇から踏み出して何かしらの福祉活動を始めるのは難しい。
4	そもそも、近所にどのような人が住んでいるのかを把握することが肝要だと思います。その上で、身近な助け合いが生まれるのではないでしょうか。そのためにも、挨拶や自治会レベルでのイベント開催も有効かと思います。
4	お年寄りのことはわかりませんが、子育てについていえば、もう少しいろいろなところで赤ちゃんの交流が手軽にできればいいと思います。そしてそれを検診のときなど積極的に広報していけばいいと思います。

4	お互いを知り合う機会が少ないので、地域ごとのイベントで知り合う機会が増えるといいかもしれない。ただ、準備などに負担が大きいすぎるイベントは、一部に負担がかかるだけになってしまうので、バランスが難しい。
4	子育て世代なので忙しくあまり考えたことがありませんが、もう少し公民館の企画やみんなが集まるイベントなどが多くなれば近所の人（同じような世代や同じような趣味の方など）と話す機会も増え自然と助け合いになるのでは・・・と思います。
4	コミュニティセンターなどで年齢を問わずいろんなサークル活動ができるチャンスがあればいい。（お金がかかりすぎると長続きしないので、実費程度で教えあう機会があればいい。 一日2・3時間でできる様なものが良い。月に1回程度）
4	隣近所とは普通に挨拶する仲になっておくこと。地域の運動会のような行事を行えれば、コミュニケーションの機会も増えると思う。
4	普段から町内の方とコミュニケーションを取り、イベントには積極的に参加する。散歩や買物ついでに町内の様子を少しでも把握しようと試みる。
4	普段から地域の方々と交流が持てる場を作り、年代に関係なく話し合いが出来、顔見知りになっておくことが大切だと思う。
4	普段から、近所同士のコミュニケーションをしっかりと取ること。困った時に話せるような信頼関係を、普段から築き上げていくことが大切だと思う。
4	日頃からひとりひとりが地域の一員である意識を持ち、気持ちよく暮らせるように努力する事が大切と考えます。挨拶，有難う，すみません，が当たり前に言える地域にしたいものです。
4	町内にどんな人が住んでいるのか交流が必要。ほとんど近所付き合いが無いので、隣の人も知らない。
4	地域福祉活動がどういった内容なのかを、もっと周知させて、参加しやすい雰囲気を作る。子どもとお年寄りの交流の場を増やして、堅苦しさをなくす。
4	地域への愛着を持つ事が基本だが、参加するきっかけがなければ難しいと思う。幼稚園や学校等を通じて何かのきっかけがあれば良いと思う。子供に参加させるのも良いのではないだろうか。
4	地域の人が顔を合わす機会を増やすための、イベントや場所の提供。または、ホームページなどの利用。
4	地域の実情の把握。機会があれば頻繁に声をかけ会う。社会福祉協議会等の団体を積極的にPRする。
4	地域の自治会、町内会等の組織の活動に参加できる雰囲気づくりをしないと、特定の方々の負担だけに終わってしまうのではないでしょうか。
4	地域の掲示板などのコミュニティサイトを利用する。グループ活動を当番制にする。（マンションごとなどに）
4	地域の活動は、まずは「挨拶」からだと思います。自分も含めて、どうしても素通りしてしまう状況を常に改めようと思うのですが。ナカナカ難しい。。反省
4	地域のひととふれあう機会を作ることが大事だと思うので、定期的に行事を開催したりすることが必要だと思います。
4	情報交換やコミュニケーションが定期的に取れる環境。少しのお金の補助があったほうがいいと思う。
4	常日頃近所の人達との交流が出来るような関係づくりが肝要と思います。家族を基盤とした近所の人達との助け合い精神を築くことを第一と考えています。
4	助け合う前に地域の中での交流が必要ではないかと思います。やはり知らない人よりも知った人同士のほうが助け合いやすいと思われるしお互いに安心感がでてくるのではないでしょうか。
4	若いときからの地域交流に関心を持ち、関連行事に参加することが必要。市は楽しいイベントを今以上に企画立案して欲しい。
4	高齢化社会においてお互いが助け会いの精神でお付き合いすべきで身近な人達が情報の交換を常にしていると支援できるとおもいます。
4	近所の方々と定期的に集まれるイベントがあれば、話す機会も増え、情報交換などもしやすいと思う。
4	近所の方とのコミュニケーションが大事だと思いますが、取れる機会がなくなってきていると思います。
4	近所に誰が住んでいるのかわからない現状なので、ある程度は、行政が率先してやらないと、地域も動かないと思います。
4	共働きで近所の人と顔を会わせることが少ない。町内会もないようなので、もう少し地域での活動があると参加しやすいと思う。
4	活動の前に、住民同士がある程度打ち解けないと浸透しないと思います。まずは、人間同士の信頼関係の構築ではないでしょうか。
4	応募者数からも判るように、いきいきプラザやことぶき大学の各講座のように、目標がある学習機会をもっと拡大して、同好会や世代間のコミニュケーションを図ることが良いと思う。
4	やはり、近所、地域との日頃からの付き合いが大切だと思う。地域での手軽に参加できるイベントがあれば、顔見知りになりやすいと思う。

4	マンションでは隣の家の人がわからない・・・等よく聞きます。やはり小規模の関り合いから始めて輪を広げるのがいいと思う
4	まず地域の人の顔を覚えるような地域交流の催しなどから始める必要があると思う。バザー、運動会、お祭りなど
4	まずは相互住民の垣根を払わなければならないお互いが信用できなければ福祉は成り立たない常日頃からの挨拶などから初めなければならない
4	まずは自宅周辺にはどのような人が住んでいるかを知る必要があると思います。その上で挨拶から始まり、徐々に信頼関係を築き、地域福祉活動にまで発展させていければいいと考えます。
4	まずは近所に住む人との交流をもち地域での支えあいの意思や意見を確認する場が必要だと思う。そのきっかけ作りを行政にして欲しいと思う。
4	まずは顔見知りになり、お互いの家族構成を把握したりして、少しずつ信頼関係を築いていって、そうする中で助け合いが出来る関係になっていくんじゃないかと思います。
4	まず、地域に住んでいる人たちの顔がお互いわかること。個人情報保護も大切だが、隣近所に住んでいる人の事はやはり知っておく必要がある。
4	プライバシーを侵さない程度の、身の回りの（校区）住民の構成（1人暮らし、高齢者、子供の数等）が知り得たら、支援を考えられると思います。
4	どのような人が住んでいるのか知る事から始まると思います。地域を住所で区切らず、学区などの範囲まで広げても良いと思います
4	できる限り身近な近所、自治会等のコミニケ−ションの機会を利用し日ごろから皆で親しく話し合いることが必要です
4	だんだんと、地域内の関係が挨拶程度や、挨拶もしない状況になってきているので、少しでも地域内で親交があれば、おのずと地域福祉活動ができるようになると思います。
4	町内会の活動を活発化させたり、隣組の組織を緊密にする。そのためには各種の行事を活性化させる取り組みが必要。
4	隣、近所とのあいさつから。
4	福祉活動をする人、される人双方が、無理無く交流する機会をつくると良いのでは？
4	普段から挨拶などのコミュニケーションが大事だと思います。
4	普段からの接点や交流を持つことだと思います。
4	普段からの交流・コミュニケーションの場
4	普段からの近所付合いが大切。PTAや自治会への参加が重要と思います。
4	普段からの近所付き合い
4	普段からの近所づきあい
4	普段から、地域の行事に気楽に参加できるようにすることが大切と思います。
4	普段から、挨拶や自治会等の活動への参加
4	日常的に声を掛け合えるような関係作りが必要と思う。
4	日常のコミュニケーションがよいことが基本
4	定期的に集まり、地域のコミニケーション（話合い）を深めること。
4	町内住人の把握。近所の方の名前ぐらいは判る様にする。
4	町内会の善意の役割分担が必要です
4	地域内にどんな人がいるかの確認
4	地域内でのあいさつの徹底・基本的なことが必要
4	地域住民との交流を促すようなイベント
4	地域社会単位で縁を育てる具体的方策を考え実行する。テレビ媒体を利用した双方向システム活用
4	地域社会の人と接点をつくる。自治会やリクレーション活動。
4	地域の交流があれば
4	地域で行うイベント
4	地域での話し合い
4	地域でのイベントなど
4	地域ごとのコミニケーションイベントが必要
4	知り合える機会を多くする。
4	知り合う機会をつくる。
4	身近な会合、イベントを多数、繰り返し行う。
4	信頼関係　生活・性格に深入りしない
4	信頼できる関係
4	情報交換できるツール
4	常日頃から、ご近所との良好な人間関係の構築。気軽に挨拶・諸行事への積極的な参加。
4	集団登下校時間のあるお年寄りや父兄が、登下校の時間にラジオ体操などするために学校に集まる。
4	集まって話し合う
4	自治会などで話し合いが必要。町内の方と交流する場もあるといいと思います。
4	自治会から情報発信して頂き近所付き合いをしやすくして欲しい
4	市政だよりなどでお知らせをする。地域の行事をして交流を深めたりする。

4	子供とお年寄りが交流できる場を作る。学校でそういう機会があると良いと思う。
4	最低限、近所の人達と日常の会話ができていること。
4	最初は隣近所の人達との挨拶のし合いから、話し合いのできる関係をきづきあげることが大事です。
4	行事や、ボランティア活動に参加する。
4	行き過ぎた個人情報保護を見直すこと。
4	交流のきっかけや機会、指導者。
4	古くからの住民が心を開かないと。
4	個人情報保護法の改正
4	個人情報保護法の過大意識のため、地域活動が相当阻害されている。対策が必要。
4	個人で支え合い・助け合いの活動が出来る環境整備が必要と思います。
4	近隣同士のコミュニケーション
4	近隣との触れ合い
4	近隣との交流活動。
4	近所付き合いが必要。近所の方と仲良くなり情報交換をする。
4	近所付き合い。
4	近所付き合い
4	近所同士の交流会などあるといいと思う
4	近所同士の交流
4	近所の方と普段から親しく付き合うこと
4	近所の人を知る必要がある。
4	近所の人とは気軽に挨拶をする
4	近所の人との付き合い
4	近所の人との交流。
4	近所の人との挨拶。まとめるリーダーが居れば・・・。
4	近所との普段のコミュニケーション
4	近所との関係のつながりを深める。一人暮らしの人への声かけなど。
4	近所、お隣等の声かけが必要だと思う。
4	共通の趣味から集まりを持ち、コミュニケーションを交わす。
4	顔合わせをして、お互い知り会える環境が必要。
4	顔見知りになること。
4	飲み会などのコミュニケーション
4	挨拶の励行だと思います。
4	挨拶からコミュニケーションをはかる
4	挨拶、声をかけ合う事から。
4	やる人の気持ち　それぞれの信頼
4	もっと地域の人と交流する機会があればと思います。
4	みんなが集まるきっかけ（清掃やイベントなど）を作り、近所同士顔見知りになる。
4	まず自分の近所の人との交流をさかんにすることによっていろいろな問題意識ができてくると思う。
4	まず近所付き合いをよくする方法を考えることからだと思います。
4	まずは住民同士の理解が必要。となりの人も知らないのでは何も出来ない。
4	まずは挨拶。
4	まずはあいさつからだと思います。声をかけることによって話ができたりする可能性だ出来る
4	まずは、交流の場を設けてお互いを知り合うきっかけが必要だと思う。
4	まず、隣近所のコミニケーションが必要と思います。
4	プライバシーに配慮した情報交換
4	とりあえず会話から
4	ご近所つきあいを大切にする。
4	コミュニケーションをとると良い。
4	お互いを知る機会を持つ、回覧などみんなで知識を共有する
4	お互いの理解と認識
4	日常普段からの、役所、自治会、民生員、住民 相互のコミュニケーション促進策が必須。
4	地域で交流事業の実施と、それに対する行政の支援
5	私も高齢者家に閉じこもってはマイナス思考になると思い、近くの公民館で会費制のカラオケが有り参加しています、とても気分が癒されます。健康なうちは続けたいと思います。
5	ひとり暮らしのお年寄りに、できるだけお家の中に居ないで出かけてもらうような催し物など、公民館等で行う
5	老人会や敬老会への参加
5	独居高齢者閉じこもりをなくす
5	参加機会の創出、周知が必要。

6	日頃の地域活動に住民の多くが関心もつ社会作りが、身近な支え合い・助け合いの活動には必要と思います。自治会などに参加している間は少しながらも関心を持っていましたが、都心勤めではそれも難しい状況です。定年になれば時間が割け、地域活動にも参加できるのかな、と思っています。特に高齢化のため、簡単な家屋の修繕や掃除ができにくい方が増えてくると思いますので、そのような手助けでもできればな、と思います。市としても区のレベルでそのようなニーズと支援可能な方々とのタイアップができれば、と思います。
6	市からの支援（地域福祉制度を整え、皆に制度の重要性を知らせ円滑に遂行出来るように指導するなど）があればスムーズに浸透していくと思う。ご近所ならばお互いにボランティア精神で助け合うのが理想だが、広い地域での活動となると、無償で～というのはなかなか難しいと思うので、少しでも報酬があれば募集しても人員の確保は出来るだろうし、活動の輪も口コミなどで自然に広がるような気がする。比較的時間が作れる仕事をリタイヤした人や主婦などが、アルバイト・パート感覚で空いた時間に地域の福祉活動が出来るのではないかと思う。
6	格安の有償サービスにするとよいと思います。身内以外の関係では、サービスを提供する人もサービスを受ける人も無償だと行動しにくいと思います。値段が高くても頼みにくいので、格安の有償がよいと思います。行政にはそのシステム構築を望みます。具体的には、サービスを提供できる人と受けたい人との橋渡し、サービスの値段の決定などです。電話の他にインターネットを利用したシステムもあると便利だと思います。サービスを提供する人は、自分の状況（活動可能な領域や時間など）を登録したり、サービスの依頼情報を確認したりするのに便利です。
6	福祉活動と意識しないで、体調を崩したお隣の木の枝、落ち葉をさり気なく処理する等：了解を得ています：日常の中で補助します。独居老人の知人に電話して思い出話をしています。先方からも電話があります。電話で話すと声から先方の体調も推察できると思います。予定に従い福祉活動は、高齢家庭生活者なので参加は無理な現状です。電話は、独居高齢者の方の気分転換にもなり、過去の交流からお互いの環境も理解出来ているのでお役にたっているようです。
6	日本では、欧米と比べまだまだボランティア精神が低いので、参加する人にある程度の見返りがないと難しいと思います。地域福祉活動をする人数が増えれば見返りは必要ないと思うのですが…。 例えば、このアンケートみたいに1回1ポイントで10ポイント集まれば地域の施設を無料で利用できる等…。まずは、近くで空いた時間で気軽にできて、短時間でできる項目を作って、敷居を低くするのが良いと思います。
6	助けられる側にも意識の向上が必要です。本来、困った人の助け合いのはずですが、私の身近であった例では、タクシー替わりに安易に送迎を頼んだり、使いっぱしりのように買い物を頼んだりする人がいるようです。また、無償ではなく、多少のお礼（報酬）があった方が頼む方も頼みやすいという話もありました。報酬の相場について、地域のコンセンサスまたは公な基準があれば、もっと利用が広がるかも知れません。
6	普段からの地域住民の親睦。向こう三軒両隣のような助け合い組織の再生が必要。現在は極端に進んだプライバシー尊重主義で、他人に助けられたり助けたりすることがし難くなった。その深奥には、お互いがお互いを信用できなくなった現在の社会がある。回答者の現在の住宅環境では、何を求められているのかは判らないし、今のところ自分には必要とする支援がない。
6	当地域は高齢化が進み、一部方が活動されています。皆さんは、活動したくても家庭に経済的負担が重く掛かり、遠慮しているのが現状です。せめて交通費、電話代ぐらいは、社協から負担する計画をたてるべきかと思います。行政が中心となり、社協、民生委員、自治会、老人会が主催して、数回理解を得る迄開催することが必要かと思います。
6	中心になるグループがいて登録制にすればいいと思います。手伝えること、手伝ってもらえることを振り分けて、ポイント制にするとか、実費はきちんと支払うとかすることも大切です。またボランティアの域を出ないのでしたら、過剰な期待をすることはしないようにするのも大切です。責任はあくまでお願いした本人にするとか。
6	緩やかなもので良いですから、ルールづくりが必要ではないかと思います。社会的にどの程度のことまでお願いできるのか、どなたがどのようなサービスを欲しているのか、どなたがどのような支援ができるのか。「地域ぐるみ福祉ネットワーク」が叫ばれていますが、支援を受けたい人も支援を提供できる人も、気軽に参加できるルールづくりができたらいいなと思います。
6	みつわ台には結みつわ台という地域福祉活動が、たちあげられました。そういった活動を盛んにするにあたって、年何回か地域の人が顔合わせができるイベントなどを行ったりすることも必要かと思います。が、結いみつわ台は、資金源があまりないようなことがお手紙で書いてありました。そういった活動にもっと市からの補助をだし、運営できるようにしていただけたらと思いました。
6	老人だけの家庭があると気になるので、そういった人たちの安否確認をご近所の人ができるといいと思う。実際にはなかなか難しいと思うので、やはり町内会とかそういった肩書きがある人がやってくれるといいと思う。
6	隣近所との普段からのコミュニケーション。毎月２～３回くらい、町内大掃除やドブさらいなどを開催すると少しは距離が縮まるかなと思います。あまり褒められた事ではないですが、福祉活動などに参加したら住民税が安くなるなどの特典を。
6	町内会で母子家庭役員をしている時独居老人の家庭訪問を何度かしましたが、打ち解けるまでは大変でした。長時間かけて訪問してもあまり意味がない人や成果が思ったより上がらない。両方がうまくかみ合うと話題が豊富になり良い結果が生まれる。

6	積極的な関心があるわけではなく、身近に接点がない。しかし消極的ではあるが関心はある。身近に自然な接点があれば関与してゆくだろうと思っている。 こうした人はたくさんいるのに、自然な接点を作って行ければ、画期的な進展、変化が生じるだろうと思います。以上
6	世の中が無関心な雰囲気でボランティアに参加するきっかけが掴みにくい積極的に参加している人が続けて頑張っていて、きっかけのない人はノータッチのままなので簡単に参加できるきっかけが必要だと思う
6	助け合いには興味があるが、時間の拘束はつらい。現在は、近所の農家の手伝いや、年配者の話し相手をしているが、自分の空いた時間で、あてにされなくて済む。感謝してもらえるので、その程度でよいと思う。
6	集合住宅住まいなので、まず最近結成された老人会の機能充実・拡大の一環として助け合いをしていきたい。一人暮らしの方の日常をウオッチできるようまず双方向インターフォンの設置のため等に補助金を用意する。
6	市民生協が現在行っているらしい、「身近な支え合い・助け合いの活動」を、市民生協以外の身近なところでも行えるとよいと思う。これからますますニーズが高まって来るとおもわれるので。実費に加え、少額でも報酬が出ると、頼む方も頼みやすいし、行う方も責任を感じると思われる。
6	近所のつながりが大切。そして、老人や障害者が地域に出るためのコミュニティーカーの導入など、気軽に買物や公共施設や病院へ行かれる環境の整備が早急に行なわれることを望みます。車は、地域の人が普段利用している車も登録し、利用する。
6	「緊急時には、ここのお宅に連絡すれば助けが受けられる」という連絡網等を作成し、必要な家庭に配布する。 老人世帯になっている自治会が多くなっている現状を皆が把握していかないと、孤独死を生む事になっていくと思います
6	無償ボランティアでは限界があると思います。実際に活動を行う人に負担感があります。ファミリーサポートセンターのように、有償の助け合いシステムを拡大させてはいかがでしょうか。
6	無償のボランティアのような存在は望ましいが、初めて手助けを頼むと気が引けると思われることから、ある程度の報酬が出る仕組みも検討すべき。
6	負担になり事件が起きるだけ。サポートセンターみたいにやりたい人だけ登録して、研修後、活動すれば良い。
6	不景気なので、少額でもいいので報酬があった方が引き受けやすいし、仕事と思ってやるので責任感があると思う。
6	難しい問題も含まれています。支えを受ける側が謙虚になれるかが課題でしょうお金の問題もあると思います。昔の献血のように貯めることができるようになるのも方法ではないかと思います。
6	内容が多岐に渡るので一概に言えないが、Q13の様な内容でQ12のeの様に多少の報酬があった方が、お互いに無用な気を使わなくて良いと思う。
6	地区単位で　取りまとめ　希望者が　希望する時に　助け合いに参加できるようにした方がいいと思います
6	地域福祉活動に参加するための登録が煩雑でないこと。誰でもすぐにできるのがよい。実費に加え、少額でも報酬があれば参加者が増えるのではないか。介護・子育ての支援が必要。
6	地域の中で、支え合い助け合いをするのが、効率が最も良いことはわかる。難しいのは、仕組みづくりと思う。誰でも、簡単に入っていけるような道筋と、それを知らしめることが必要と思う。
6	相互助け合いの組織作り、当面「官」主導とするか、ボランティア組織の立ち上げか、町内会のような組織を使うか・・・いずれにしろ、主導する必要あり。
6	身近な方々との支えあいが中心となると思うが、個人情報保護法が大きなネックとなっていて、個人間の連絡網がスムーズに構築できない。
6	身近な支え合い・助け合いの活動を行えば行うほどポイントみたいなものがもらえ、将来、優先で支援を受けられるような仕組みを作る。
6	助け合った場合、地域通貨を発行しそれでお互いに支払いをするなど、単なるボランティアではない明確なシステムが必要だと思います。
6	助け合いは高齢化に向けて必要な事なので、参加したいと思っている人は多いはず。活動組織があれば気軽に参加できると思う。
6	助けてほしいときに誰が助けてくれるかというのはいざその時では調べにくいので、普段から知らせ、調べておいてもらうことが必要だと思います。
6	支援する・されることが特別なことでなくなるために、短時間、小さな事でも支援できる・利用できるような制度。
6	支えられる側・支える側が、気持ちよく利用できるルール作り。気がねしたり、プライバシーに立ち入ったり、借りを作るような気がしたち、恩着せがましかったりするような心配のないルール。
6	子供が小さいうちは近所付き合いが深くなりますが、大きくなるに従って、ほどほどになります。助け合いのサークルなど、登録制で無理なくお手伝いできるものがあると良いと思います。
6	参加しやすいシステムづくり。時間や曜日にいくつもの設定があり、自由に参加できること。必要最小限の規制以外に強い縛りがないこと。
6	今、悩んでいることは、これらの活動が押し付け、または「小さな親切、大きなお世話」にならない様にするには、どういう態度・システムで臨むことが必要かということです。

6	近所付き合いの延長で小さなイベント(パトロールやゴミ拾い)が気軽に参加出来るようにする。(我がマンションでは何もない。)
6	気軽に参加でき、気軽にやめられる仕組みが必要だと思います。また、交通費くらいは出ないと厳しいかもしれません。
6	活動をする人の家族の理解が必要だと思います。普段仕事をしている人の場合は、他の人達と交代しあえる、時間や日にちの融通が効くシステムがあると良いと思います。
6	各町内会、自治会サークル、学校での活動を積極的に推進し、高齢者の身の回りの世話が必要。独り暮らしの高齢者を社会的に見守る。
6	やはり少しでも報酬が出ないと動けません。時間を使うのですから、感謝の気持ちをいただくだけでは、同じ空いてる時間を使うなら、パートに出たほうが有意義です。報酬を出していただきたい。
6	ボランティアをまったくの無償にせずポイント制などを導入して、ボランティアを以前した方が、年を取ってからボランティアを気兼ねなく受けられるようにしてら良いと思う。
6	ニーズとしてどのようなサービスを求めているかとできる人は何ができるのかを統括するところが欲しいです。
6	ご近所同士で支え合って支援できたら良いと思います。私は今　母が入院していて東京に通っているので　中々時間が無いので今後は　時間ができたら協力していきたいです。
6	お金の報酬でなくともポイント制などにして、市や区や国の公共施設等を無料、または安く利用できるなどの特典を設けるといいのでは?
6	老人性難聴等の耳の悪い人に判る様に文字によるサポートが必要。
6	利用が簡単なのがいい。また報酬は、金銭に限らず少しでもあったほうがいい。
6	負担にならない程度の回数の話し合いの会金銭的補助
6	地震のときに家族以外に安否を確認できる相手がほしい
6	地域の人が情報交換をして、助け合うという考えを持てれば。
6	少額でも報酬があれば、やりがいもでると思う。
6	自治会、公民館活動、学校で、ボランティアサークルを立ち上げる。
6	困った時に助け合える環境にすることが大切
6	交通費等の支給
6	個人ですと遠慮もあり活動しにくいので、活動支援グループが必要かと思います。
6	強制的ではなく、自主的に参加できる雰囲気作り。
6	気軽に参加できるような(敷居が高くない)チャンネル作り。
6	簡単な事から参加できるような機会。
6	何かやりたいと思っている人は多いと思うので、活動しやすいシステムがあれば参加出来ると思う。
6	意識改革とシステムの整備
6	マンション内でもきちんとルールがあれば助け合いがしやすいのではないでしょうか？
6	お互いに極度のお礼返し、気遣いを必要としないルール作り
6	いつでも気軽に参加、不参加ができる風土
7	小さな子供がいるので、登下校や遊んでいる時間が心配です。イヌを飼っているので散歩ついでにでも防犯パトロール的なものが出来ればと思っています。イヌを飼っている人をチェックするのが大変だと思うので、狂犬病の注射のときなどに子供の登下校時や遊ぶような時間に散歩をしたりして防犯パトロールをしようと呼びかけたらいいと思う。イヌや散歩バッグにつける防犯パトロールグッズを配ったりするといいと思う。
7	先日、雪が降った日に、近所で道路の雪かきをしてくださった方がいてとても助かりました。子供の通学路でもあり、感謝の気持ちで一杯です。お節介でもなく、義務的でもなく、それこそ適当に、継続してやってくださるのが、うまくいく秘訣ではないかと思います。防犯パトロールについては、腕章やジャンパー、懐中電灯などの支援があるとよいと思います。
7	最近凶悪な事件が起こりやすくなっており、起きたときの犯人の検挙率が下がっていると聞きます。。そのような事件が起こりにくくするには町ぐるみで防犯に関する意識を高め、パトロールしている町だぞと知らせるのがいいのではないかと感じます。安全な町であるために。
7	共働きや核家族などで、近所とのつきあいが希薄なのは事実です。まずは、町内会や自治会の防犯パトロールなど、やや強制的(この言葉が適切かわかりませんが)かつ定期的な活動でお互いの顔を知り、話をすることからだと思います。
7	1)自治会による地域福祉活動の啓蒙運動。 2)防災会の活動強化(防災会の活動を強化することにより、自然とひとり暮らしのお年寄りの安否確認や要援護者への支援ができるようになる。)
8	両親は30年以上地域のボランティアに取り組み社会奉仕に熱心でした。自分たちが生活支援を必要としたとき、老人福祉は今ほど軌道に乗っておらず、有料の老人施設で寿命を全うしたことから考えると、日常の何気ない生活をsosで気軽に手伝ってくれる奉仕サークルが自治会等身近にあるといいと思います。
8	民生委員、児童委員、町内会、自治会等が、その地域の支援を希望している人を掌握し、そこが窓口となって支援する人を募るようなシステムが出来れば良いのではないかと思います。お手伝いしても良いと思っていても、困っている人の有無が分からないとできないし、支援の押しつけになってもいけないので・・・。

8	地域に地域福祉活動等の組織を作り、参加しやすい環境設定（諸支援の内容・条件等）、協力メンバーを行政後援で募集・登録し、ノウハウや運営方法等の情報提供・指導等を行う。地域住民には、組織の存在のPRを徹底させ、支援できる事項等の登録を仰ぎ協力を頂く。
8	社協地区部会が中心となって推進するのが現実的で、最も効果が期待できる。ただし実活動の経費は補助すべき。また、地区部会の位置付けを明確にし、継続して活動することが義務化された団体とすべき。一方、市社協は縮小し、補助も削減したほうが良い。
8	自治会を中心とした地域活動が一番いいと思うが、そんな人は回りにいない。福祉センターが外部活動を積極てきにすべきだが現状では無理。民生委員も動けない。民生委員制度を見直す事も必要かと思う。
8	現在は個人情報保護とのあいだで、どこまで立ち入るべきか？難しい。老齢化が進み、あきらかに引きこもり状態を思いながら気になります。地域の事は自治会等が、いま少し活動の輪を広げてほしい。
8	県、市、区において、一般公募により助け合い活動に参加できる人を登録採用。活動には、日当・交通費等必要経費を出し、実行させる。支援内容により事務係が振り分けるなどの部門を設ける。部門の開設を広く（新聞等）知らしめる
8	民生委員だけが頑張っているが身近な自治会がもっと助け合い精神を発揮してほしい。当方の自治会では子供中心のお祭り騒ぎが優先していて高齢者への配慮はほんの形ばかりで心がこもっていない。
8	当面は自治会が軸となって活動を推進すべきだが、その呼びかけが全く無い。役員の積極性が欠けている。この任命手順はどうなっているのか。
8	町内会・自治会の活動が身近であり継続し易いと考える。出来ることから始める・お互いに無理しない・継続する出来る土壌を地道に作り上げる。
8	町内会、自治会、老人会、子供会など人の集まるグループに、積極的にボランテア活動に協力のお願いをする。新聞、雑誌などの廃品回収収益を、援助費に当てる。
8	従来の町内会活動を、火災予防に加えて福祉活動や町内の防犯活動・清掃活動に、より重点をシフトする。
8	住民の意識改革、信頼関係の確立のため自治会等の役割が重要と思う。一人暮らしのお年寄りの安否確認は急務。
8	自治会を中心に行うことが望ましいのでは。中には、自治会にも加入していない方はおりますが。まずは、一つの集合体の中で実施が良いと感じます。
8	自治会を中心に活動の場を作りたいが、作り上げるにはなかなか皆の協力が得られない。自治会長として自主防災組織を立ち上げたが後任の役員が行動を起こさないのが現状であります。
8	自治会の役員のときは防犯パトロールに参加していましたが、今は参加していません。参加するとしたら自治会の活動を通じて参加したいと思います。
8	私には子供はいませんが　小さい子がいたら　子育てサロンや育児サークルは利用したいと思います。
8	私が住んでいるベイタウンは平均年齢30代の若い世帯が中心にすんでいるがこれから20年後30年後を考えると、今からどんな助け合い活動が出来るか考えていかなければいけないと思う
8	向こう三軒両隣の考え方に立ち、身近な組織である町内自治会を中心に支援体制を構築するのがよぃと思う。
8	リスクを誰も保証してくれないことが怖く、手を出さないことを選択している。何らかの団体に属し、事故など何か起きた際の、保険が必要と思う。
8	モット近隣の方々との触れ合う機会を増やすためにもまずは、自治会をどの地域にも作り、信頼感関係を作ることが大事だと思います。私の住んでいる場所はまだ新しい町で、まだありません
8	ボランティア活動を支えるしっかりした組織をまず作ること。運営上のノウハウをアドバイスできるような行政のHELPが必要。でないと運動が空回りしたり、運営の上で無駄がでかねない。
8	どこにどのようなニーズがあってどのような組織で支援していけばよいかわからない。まずは、この地域福祉活動を推進してゆく組織活動の情報共有が必要と思う。
8	うちの地域は自治会活動が盛んで、支え合い 助け合い活動も行っているので、そういった自治会活動を支援するようにしたら良いと思う。
8	隣の人の顔が見えるような自治会活動
8	民生委員をサポートするグループを、地区に作ることが必要だと思う。
8	民生委員とボランティアグループが一体となった活動が必要。
8	町内会の充実
8	町内会、自治会などの助け合い支援体制
8	町内会、自治会などで具体的活動を行う。
8	町内会，自治会にただ頼むだけでなく、市の職員が積極的に出てきて話をすべきと思う。
8	酒飲み仲間の自治会・町内会の役員会などは、会費の無駄遣いであり不要
8	自治体が中心になって各家庭を定期的に尋ねて見てまわり個人の情報を把握しておく。
8	自治会等の活動支援や、行き過ぎた個人情報取り扱いの見直による支援環境づくりの推進と条例化。
8	自治会を一度解体して、新しい人たちを選んで、古い弊害を除去すること。

8	自治会の体制ができていれば良い。呼びかけがあれば、活動に参加しやすい。
8	自治会など地域活動の活発化。
8	自治会などの活発化
8	自治会などで話し合い。病院などの通院の車での付添
8	自治会などがリーダーシップをとる。個人では難しいと思うので。
8	自治会と民生委員、社会福祉協議会地区部会との共同活動による支援につきる。
8	自治会で、取り上げる
8	行政と自治会等が連携して組織的に活動を行う。
8	活動をする際に生じるかもしれない事故等に関する保険に入れること。
8	ボランティアでの危険性を考慮し、報酬ありで募集をかける。
8	こちらにはありませんが　町会はあった方がいいと思う
8	グループを多く作る
8	いろいろなサークルがあるよですが経費の面で苦労しているようです。
9	当地域では高齢化が進んでおり、あと、10年もすると、自助は勿論、共助もして欲しい人ばかりで、支援してあげたくてもできない状況になると予想されます。当然、自治会活動、福祉活動をする担い手がいなくなります。公助として、あなた方役所が何ができるか今から考えておかないと手遅れになります。高齢化の問題は、「ゆでカエル現象」と同じで、気がついてからでは間に合いません。よろしくお願いします。
9	町内会・自治会が取り組めば、相当の分野で出来ることが多い。団塊世代の定年で動ける人が増えている。しかも金も掛からない。市から町内会、自治会の会合に出向き、協力依頼取り組み方などの指導があっても良いのでは。
9	住まいの地域では高齢化が進んでおり、助けてもらいたい人は多いが、実際に助け合いの活動に参加できる人は限られている。しかも仕事や育児などで忙しい若者は参加が難しいため、ややもすると、活動をするという負担が一部に偏ってしまうので、不公平感が生じやすい。
9	自分は時間がないから無理です。できそうな人は仕事をリタイアした人にお願いするか、無職の人にやらせればよいと思う
9	市町村が中心となって、地域活動の仕掛け作りをすることが必要！その為にコストの掛からないシニア層の有効利用をすることが大事。
9	個人のプライバシーへの配慮のできる方が良い相談相手として、地域リーダーとなって欲しいので、そのような方を育てる。
9	まずリーダーシップを取る、時間に余裕のある人が必要。高齢者が多いので、買い物代行や病院付添いなどが必要だと思う。
9	まずは誰かが実践をするしかないと思います。場所、時間の提供をしてくださるかたを集め意見を聞くべきです。
9	「困ったときはお互い様」という考え方が、浸透する必要がある。そのためには、率先して活動に取り組むリーダーが地域に必要。
9	様々な人の参加
9	特定の人だけが行うのではなく、普通に誰でもが出来るような形にしなければならない。
9	小地域に地域福祉リーダーを置くこと。
10	マンション住まいですが、表札をかけない人が増えている。個人情報をまもるためらしい。又中国人等外人の入居者も増えて、彼らの世界を作っており、日本人は無関心でいる。基本的人権、個人の尊重、個人情報の保護等が過度に教育されたためこのような弊害が出ている。今の60歳以下は日教組の教育の影響が強く、助け合い活動を進めるのは難しい。これからの学校教育で福祉活動の意義を教えるしかない。但し私立の学校出身者には理解者が多いので、市政たよりで支援を訴えたら良い。支援は必要としている人からアンケート調査をしたら良い。
10	私は以前、足が不自由で車椅子に乗ったり、杖をついている時期がありました。現在は障害が残っていますが、見た目は普通です。その足が不自由であった時に世間一般では本当に身体が不自由であることを理解していただけない。乗り物では席を譲ってもらえないし、歩道では健康方では分からないと思いますが、若干斜めになっていたり。まずは自治体や個人が福祉の本当の意味を理解することから始まるのではないでしょうか。
10	ボランティアだけでは難しいと思う。また、小さい頃からそういう福祉活動を行うように、小中学校でもっと取り入れていけばいいと思う。そういうことが当たり前になるように。少子化で、統合されて使われなくなった学校などを有効活用して、地域の子供たちや老人たちが一緒に活動ができるような場所を作って、自然とお互いが支えあっていけるような環境作りも有益だと思う。
10	それが普通、当たり前ととらえる社会が作られること。短期策ではないが、子供たちの育成時点から、それなりの社会教育を考慮していくことが必要と考えます。子供たちが親や周囲の姿を見ながら育っていくような福祉でありたく、必要だから「やれ、やりましょう、やってくれ」の形ではなく、人間として学んで育つ基礎が必要。
10	地域福祉活動というものを認識していない人が多い。行政はやっているが、市民に浸透していない。パンフレットを出したり、回覧するだけではダメだ。地域の小さい単位で、教育・訓練を兼ねた啓蒙活動を実践しなければ、身に付かないだろう。

10	自分さえよければいいと言う考えは無くす。最近はしならに子供二注意をすることもできなくなりつつあるが、年配者が若者を注意するのは当然のこと。それを受け止める姿勢が若者や子供に欲しい。そのためには親がもっとしっかり教育すべきである
10	強制的な何かを含まないようなかたちで地域内での人々の協力や、信頼感、親近感。それらを養う為の活動。ちなみに、気持ちはあっても大病を患った私には、今のところほとんど、そういった活動は行えませんが・・。
10	奉仕を受ける側の　マナーも　大切です。　奉仕を受ける側、提供する側が、ほどほどのお互いを尊重する 思いやりが大切。甘えすぎない、頑なにならない、そんな気持を、若いうちから、育んでおきたい。社会性の教育が　求められるものでしょう。
10	小学校など、子供から福祉活動に参加させてみる。その後、親も参加して、週末などに体験活動を企画したり、イベントを行う。
10	小さい頃からの教育ではないでしょうか？　身近な支え合い・助け合いの必要性を、小さいうちから身に付けることによって浸透するものではないかと思います。
10	支援内容はよくわからない浸透させるには学校の課題に取り入れるなど普段てきに感じるようにみじかに活動する
10	個人的には、支えあいをしようとするモチベーションを持てるかどうかです。やろうと思えばいろいろ手助けできると思いますが、そう思うまでが大変な気がします。
10	個人として積極的に行動するにはかなり時間がかかると思う。まず行政が積極的な活動をし、個人を徐々に促していくことが必要だと思う。
10	教育だと思います。たとえば家の前の道路は自分でを清掃するとか、ごみ出しのルール徹底などのモラル向上が総じて地域の支え合いとなります。
10	学校単位での(PTAなど)親の教育・関心を高める活動。若い世代に関心が無ければ、マンパワーにもならず次世代に続かない。学区は居住区にほぼ等しい人が大半なはず。
10	わが身になって振り返ってみて、必要であることでしょうか。誰でも支援が必要になる時が来るので真剣に考えていかねばならないと思います。
10	わが国で昨今失われてかけていると言われている人と人との関わり方を、親密に出来るような家庭、および学校等の教育の進め方、これを推し進めるための行政の認識が肝要と思われる
10	まずは、助け合いの精神が基本的な素養として身につくようなしっかりとした学校教育を徹底させる。
10	プライバシーが重要と引きこもりの年寄りでは、どうしようもない。お互いに助け合いでやらなければという前向きな考えでないと進めない。
10	「特別なことではない。普通のこと」という意識を自分も含めて地域の人が持てるようになることが必要なのではないか。
10	誰もが、「助けを必要になる時が必ず来る」ということを常に意識している事が、大切だと思います。
10	小学校からの実地教育
10	自分が助けてもらえれば、今度は自分が助ける側に立とうと思えると思う。
10	差別をなくすこと。
10	高い意識レベル
10	講演などを聞く
10	研修と自治会での話し合いが必要と思います
10	極端に低い千葉市民のモラルの向上
10	各人の姿勢
10	介護、介助、障害などの理解
10	みんなが関心を持つようにする。学校で教育する。
10	それぞれが 思いやりをもつことで
10	お互いがお互いを思いやれるような環境の土台が必要。
10	お金を得る活動だけを重視する社会の意識の変革。人が生きることの意義を問い直すことが必要。
11	個人レベルで無理はせず、できる範囲で継続すること。他の地域での事例集などの発信支援がほしい。
12	支援する側中心の活動ではなく、一般の人（支援する側される側）中心の活動であること。また、両者にとって、窓口の広いものであってほしい。
12	最近地域パトロールに参加することにしましたが、もっと地域活動に参加する機会・情報を発信する必要があると思います。
12	今はあまり近所の方との付き合いがありません（友達はいますが・・）地域福祉活動とはどうするべきか？また集まりやすい環境になっているかなどわからないことが、沢山ありますまずは情報かな・・
12	広報活動を頑張ること。どんなことが出来る人が必要で、どんな人が必要としているかを手伝うことの出来る人にメールをし、返事をもらう！
12	具体的に何に困っているのか、どんな支援をしているのか、その必要性を市はもっとアピールし、その支援活動に対して援助することも大事だと思います。
12	具体的にはよくわからない状態です。公民館や地域センターなどで表示があれば関心を寄せたいと思います。
12	関心があっても参加する機会がない人も多いと思うので、どのような活動を行っているのか広報する場が必要だと思います。

12	活動状況のポスターを貼る。活動している方が腕章をつけるなどして、第三者にもわかるようにする。
12	活動情報や登録方法などの情報を広く伝える事から始めるべきだと思います。あまりどこでどのような事が行われているか知らない為にそう感じます。
12	活動をしたいがどうしてよいかわからない、自分も含めてですが方法がわからない人が多いと思います。信頼できる情報があれば、参加者も増えるのではないでしょうか。
12	活動に参加したくても何処に問い合わせたらいいのか，わからない。市の広報などで呼びかけて欲しい。
12	活動が実際に行われているかどうかの実績が知りたい。広報などに載せたり、チラシなどで周知を企ててほしい
12	一番大切なのは情報だと思う。現在は町内会に入っていない為、地域のことはわからない。社会福祉協議会がどのような活動をしているかも知りません。広く皆に知ってもらう事が重要だと思います。
12	もっと活動のアピールが必要。地域活動の推進。先頭に立って呼びかけてくれる人の存在（自治会長等ではなく、市の職員等の第三者的の人）。
12	まず、自分の住んでいる地域ではどのような活動があるのか、どのような活動団体があるのかを知った上で、活動を促していかないと浸透は難しい。自治会などが中心になって支援していくべき。
12	どのような活動をしてるのか、登録はどこで出来るのかなど、市政だより・ホームページに載せる。図書館や公民館で、幼児（1歳～ぐらい）のお話会やお歌などしてほしい
12	◎もっと情報提供をして身近に感じてもらう(活動内容を知ってもらい、利用者の感想なども聞けるようにするとか)◎できるだけ面倒な手続きなしに参加、利用できるようにする。
12	無料の体験、または大々的な宣伝、説明会の実施。
12	福祉活動の広報。地域住民の意識高揚。小中学校（PTA等）を通じた活動の活性化。
12	地区の掲示板に詳しい内容で貼り出されると目に止まりやすいかと思う。
12	地域福祉活動の啓蒙活動が必要である。
12	地域福祉活動があること、実際の利点や経験談などの広報・宣伝活動が、もっと活発にされること。
12	地域福祉の人がどの方なのか、集まりなどをすれば、内容的に分かりやすくなる。
12	地域全体でそのような活動を行っていることを知ってもらう。
12	地域浸透：情報共有の徹底。支援活動：報酬制度、支援活動の広報
12	地域活動の広報と参加の呼びかけにより、活動内容の周知を行う。また、実施したい活動の提案の受付。
12	地域の理解と協力が必要。その為に情報をオープンにし、広く理解と協力を求める。
12	地域の有識者が先頭で行ない、広報紙でアピールして同志を募る。
12	地域で行っている活動をもっと周囲に知らせる機会があれば良いと思う。
12	地域・市役所等による啓蒙活動
12	誰もが参加しやすい雰囲気作りが必要。
12	絶えず活動の案内などが目につくように広報などに載せていると良いと思います。
12	情報を提供する
12	情報を浸透させる
12	情報をもっと分かりやすくしてほしい。
12	市政便り等にボランティア団体の告知をする。
12	参加の募集などの呼び掛け
12	参加の仕方がわからない。（日赤のボランテアには参加している）
12	困っている現状をリアルに報道
12	告知等による積極的な意識改革が必要だと思います。
12	行政などの広報活動による各種福祉活動団体の周知など
12	広報活動
12	広報などにのせて、親しみやすく活動内容と報酬を具体的に載せる。
12	景気がよくなり、生活にゆとりが持てるようになる。また、回覧などで若い世代に呼びかける。
12	掲示板など活用しなにが必要とされているか皆に周知するとよい。
12	啓蒙活動が必要と考えます。誰が何を必要としているか情報収集が必要と考えます。
12	啓蒙活動
12	区役所の福祉課からの積極的な呼びかけ、自治会からの積極的な呼びかけ等が必要と思う
12	気軽に参加出来る情報提供
12	官庁により、市政だよりなどで定期的に、活動内容の報告や周知をする。
12	活動内容の周知徹底、利用料金の低額化
12	活動内容の広報。
12	活動を知ってもらう。
12	活動をしているというアピールと市の補助。
12	活動の徹底した告知により浸透させる。何らかの報酬を支援する。
12	活動に参加しやすい広報をしてほしい
12	活動があることを広めて、参加を呼びかける。
12	各戸にパンフレットの配分で広く知らせる。児童館を作る
12	何度も説明、参加を呼びかけるしか無いと思います。

12	何処の誰に申し出すればよいのか解らない。
12	何をやっているのかをもっとアピール
12	意識改革を伴う、広報活動。
12	もっと宣伝活動が必要若い世代に呼び掛ける
12	まずは、広報にのせて募集を募るのが良いと思います。
12	ボランティア活動の掲示
12	そのような活動をしていることを広めることが必要だと思う。
12	すでに活動している人からの働きかけがあれば良いとおもう.
12	スーパーなどの掲示板に広告を張る。
13	日本手話を勉強しています。シムコム（日本語対応手話）とは異なり、日本語とは全く文法の異なるろう者の母語です。市外で学びましたが、プライバシーを守らない通訳者たちとは関わりたくないので、友人や知人に個人的にお手伝いしたりすることがあります。千葉市ではどうか分かりませんが、他の市では手話通訳者がろう者のプライバシーを守らずに話したり、行動に立ち入ったり、指導するようなことをしたりするなどのトラブルが起きていました。プライバシーを守ることが必要だと思います。
13	おゆみ野は新しい土地なので、地域福祉活動はまだまだ浸透していないと思う。だが、自分が何をすればいいのかまたは何をして欲しいかと聞かれるとよく分からないのが本音。複数子どもがいる家庭で、健康診断や授業参観や懇談会に出たくても下の子どもを預けられないと言う話はよく聞く。まずは市で主催する健康診断などで、受診している間だけ子どもを見ているボランティアなどがあると受診しやすくなると思う。
13	いくら整えてもニーズにあっていなければ浸透もしないと思うのでそれらを調査する必要があると思う。私のように乳幼児もちはボランティアをしたくても、我が子第一なのでしたくてもできない。このような場合どうしたらよいのか、ボランティアなんてするなということなのか、とよくおもう。昼間活動できる人は専業主婦だろうから、託児所が無料で使えたら便利だとは思うが、そこまでしてボランティアする人がいるかどうかは少し疑問でもある。
13	自治体によって地域差（年齢層、職業等）があると思うので、幾つかモデルケースをピックアップして、生活の中で困った事例とその解決例について調査し、具体例を整理するとニーズにあった方向性が見えてくるように思えます。また、こうした活動からは障害者が漏れがちなので、それらを包括した内容が望ましいと思います。
13	私は関西出身なので、こう思うのですが、こちらではでしゃばっているとか、ずけずけプライベートに入ってくるとか思われるかもしれないのですが、あつかましく思われるくらい、周りにおせっかいをするくらいの気持ちを持って生活すればよいのではと思います。住む地域により人の感じ方が異なるので、なかなか難しいとは思うのですが。
13	行政はどうして自治会組織は認めるのに、管理組合組織は認めないのか？管理組合は財産管理だけの組合ではなく、地域の活動にも積極的に参加を求められているし、参加している。しかし、自治会に要請があっても、管理組合は無視される。時代の要請に行政は応えるべきだ。新しい時代の動きに行政も対応すべきだ。
13	本来行政がやるべきことを地域に移管する訳ですから「まず市の職員の経費・・・人員削減、年俸削減等」を徹底的に絞ってからの話。このデフレ時代に市の職員のみが裕福・横柄に過ごして良いのでしょうか？
13	便利すぎる世の中だと、助け合いは生まれない気がします。エコのこともあるし、少し昔に戻った方が良いのかも・・・地震が起きたときのためにも、サバイバル体験も必要か？・・・回答になっていないかもしれませんが。
13	働き盛りの人は仕事が忙しく、なかなか地域の活動には出て来れない。また、高齢者の方を中心に行う場合、考え方に世代間格差が出てくる可能性もある。かなり難しいことだが、行政が主導してあらゆる世代の人が地域活動に参加できる時間を確保する（企業への働きかけなど）ことが、必要だと思う。
13	他人に入ってこられるのを嫌がる人が多いので、とても難しいと思います。病院への付き添いも、私は車の運転ができないので役に立てそうにないです。運転できる人は役立つ活動ができると思います。
13	助け合いをはその人が死んで初めてこんな活動をしていたと分かればよい。NPO等の己惚れた自己満足意識が気にいらない。自分が助け合いをしたいと思う人がやればよいことであり、それを浸透させる活動など不要。偽善者の集まりになる。
13	自分も今年70歳になりますので、大いに関心を持っていますが、持病を抱え、定期的な通院をしている関係で、物理的に参加できません。私の様に動きづらい者への親身の支援は妻しか出来ないのが実情です。将来の老老介護が目に見えていて心配です。
13	支援者の意向を十分聴くことが重要　これが不十分だと折角良い企画であってもトラブルの原因となる　また実施にあたっては決してむ無理のない方法で急がずやるおと　先行して実施している地域の情報（問題点を含め）を聴き、慎重に勧めることも肝要
13	子供が小さいママです。マンション住まいなのでまだまだ一人で子育てをする時間が多く　育児の辛さを体感しています。お年寄りだけでなく子育て家庭にももう少し身近に頻繁に心のケアが欲しいです。

13	子育て中で小仲台保健センターから保健士の訪問が必要ならば、きてくださると言うシステムを利用いたことがあります。とても心強かったので、地域福祉活動から呼びかけがあると助かると思います。
13	近隣関係はお互いの気持ちの相違があっては成り立たない現代なので、無理に関係を推進するのは難しいと思います。私自身もできれば家族で解決していきたいと考えていますが、実家も遠い為、頼る人がいないなぁ～と思う今日この頃です。
13	近所の人たちの価値観やマナー、きっかけなどが近い感覚でないと、なかなか身内や知人以外には家庭を見せないものだと思う。浸透させるには、辛い事もあるが楽しいもの、その事がきっかけで自分自身得られるものがある事などを、もっともっと伝えていくべきだと思う。
13	活動の団体が身近に感じられる様な組織体制作りが必要では・・・連帯意識が生まれる様な、感じられる様な・・・活動が一人ではないよ、このサークルでしてるんだよ！団体活動が身近に感じられる様に・・・
13	「向こう三軒両隣」が基本と考えますが、要は受け入れ側の考え方ではないでしょうか？他人の世話にはなりたくない（干渉と親切は違うのですが）という人が多いような気がします。こちらからの働きかけの仕方もあるのかも知れませんが・・・
13	余り近所の方にはしがらみもあり頼みづらい隣の町内など少し工夫がほしい。また民生委員などどういう基準で選ばれているのか疑問。おしゃべりな近所の人はご免こうむりたい。
13	本当に求められていることを把握すること。恒久的、持続性のある、環境をどうつくっていくのか考え、実践していくこと。時間的なこと、金銭的なことクリアすべきことの解消。
13	分譲マンションに居住しているが、マンション内の管理組合や自治会活動が充実しており、この中で活動することとなる。自分としては、仕事があり当分の間活動に限界がある。
13	当方は集合住宅でありますので、自治会を通じて助け合い活動を自主サークルとして行っていますが、独居高齢者の打ち解けがままならない傾向です。
13	地域やご近所含め信頼、信頼出来る環境。またボランティアという言葉に甘えっぱなしな姿勢で、徐々に負担が大きくなる傾向
13	地域の福祉活動にしても、行政が先頭に立たなければまとまる物もまとまらない。リーダーシップをとるのも、同じ地域住民では、仲間割れ等の危険が予想される。
13	地域に推進の核となる人がいること。その人を信頼して、まわりに人が集まっていること。住民が望んでいるサービスの提供。
13	地域で福祉活動を推進している人のコミュニケーションスキルの向上。あるいは、スキルのある人材を、地域で福祉活動を推進する人に登用・採用（報酬あり）する。
13	誰か一人でも活動に詳しい人がいてその人を中心に周りの人も協力していけば広がっていくように思える。
13	大規模な団地では、入居者がほぼ同年代のため老人団地と化している。老人と若い人の適正な比率を保たなければ、一部の人に負担が大きくなる。
13	数年単位の長期に渡って継続的にリーダーシップを取れ、信頼される人柄で、かつ地元に根付いた人材。
13	質問の趣旨からは少々ずれますが、千葉市は市民税が高いのですから、もう少し行政ががんばってもよいのでは。ボランテイアに頼っていく計画なら、税金下げてください。
13	事前予約ではなく、小さい子供がいるとちょっとしたところや自分の病院に行くのに預かってくれる人がほしい。一時保育は何週間も前から予約が必要なので。
13	私生活不干渉の原則を守りながら、支援するのは結構難しいと思います。意識の転換が社会全体で必要になります。
13	支えられる側、助ける側の意識の高さが必要。環境を含めて、周囲の人々にも無関心の方が老若男女を問わず、多いと感じる。
13	支えや助け合いは強制でやるものではない。支援者が『やってあげている』という態度になるのでボランティアが必ずしもいいとは限らない。
13	支えあい、助け合い以前の問題で、通常の関係が出来ていなければそれ以上の関係にはならないのでは？まず、福祉について興味をもつことが一番だと思います。
13	市などで活動の募集、営利を目的にしない団体が活動をすると言う前提でないと活動が仇になるので、市町村で実施することが望ましい。
13	今は自身の生活に忙しく、ボランティアなどできませんので、詳しいことはわかりません。その立場にある方にアンケートをとるのがいいと思います。
13	個人や自治会だけでは、このご時世、なかなかまとまらないと思います。行政がしっかりと旗振りをして、指導していかないと難しいと思います。
13	現在は、必要性を感じていないのでなんといえないが家庭内の事が近所に吹聴されるので防止方法を考えるべきであろう。
13	経済的に余裕ができれば生活や心に余裕ができ、人の為に何かできないかと考えることができるが、経済的余裕のない今は他人への支援など考えられない。
13	近所の人や友人はお互い様なので別ですが、福祉活動としてのボランティアなどを望む場合、交通費等の実費くらいは、市で補助されるといいと思います。
13	学童保育の時間が土曜日だけ16時半という早さで終わってしまう。16時半以降に保育を頼める環境が必要！！！

13	押しつけがましくなく手助けをする。やってあげているという意識をなくす。ボランティアをやらない人を非難しない。
13	安心してサービスを利用するためには支援者の身分を保証する公的な団体のバックアップが必要だと思います。
13	やってもらう側の感謝も必要だと思う。当たり前と思われたり文句を言われるのはやる側としても張り合いがなく、義務的になる。
13	そのような立場を公的な機関から承認されて、セミナーやワークショップで基礎の知識をもって、証明書などをもって掲示する。誰でも彼でもいいということではいけないと思う。
13	あまり大げさでない公の働きかけが必要でしょう。NPOとかNGOとか構えて行うことは好まない人が多いのではないでしょうか。みんな何かの役には立ちたいと思っているのでしょうが…
13	労働時間の短縮。
13	無理
13	分かりません。
13	分からない。それを話合うことから、はじめる必要があると思う。
13	難しいですね
13	特に考えたことが無かったので、現時点ではわかりません。
13	特になし
13	適度な距離感を保つことが必要
13	賃貸マンションやアパートの住人は無理だと思います
13	地域福祉活動の時間がない。東京へ通勤だから地域福祉活動に参加できない。疲れますよ。
13	地域福祉活動に関心はありますが、今のところ具体的には何も考えていないので分かりません。
13	地域新聞のようなネットの掲示板回覧板よりいいのでは？
13	対等な立場であることを認識する努力
13	相手の身になること
13	支援に参加しやすい環境づくりをお願いします。どのようなものかは、わからない。
13	支える方は出来る負担なく範囲で、支えられる方は好意に甘えすぎないよう努めることが必要。
13	思いつきません。
13	市の援助
13	仕組みを理解させ、全員が何らかの参加を義務とすること
13	最初は地域振興課さん等の指導、モデルによるボランティアにより立ち上げが必要と考えます。
13	今は必要としないので　よくわからない。
13	行政からの支援が必要。ただし、的外れでない納得感のある内容の支援を。
13	現在は必要性をそれほど感じていません。
13	現在のところ考えていない
13	経済的にも時間的にも、生活に余裕がないとできない。
13	近所でも助けてもらいたい人がいたらそれをアピール出来るものがないとわからない。
13	各町内会に地域福祉員を置いて、気軽に相談や手伝いに応じられる様にすると良いと思います。
13	家庭支援は生活内容が知られるのは嫌という人もあり難しい点もある。
13	化学物質とはどう関わるのでしょうか。
13	一人暮らしの会社員で、休みも月に2.3回なので、そんな暇はない。
13	わじゃらない
13	わからない
13	わからない
13	やはり市行政の適切な指導が大事です。この指導に協力する形が望ましいです。
13	まず、家族の全員が、その存在を、お互いに知り合うことです。
13	フルタイム労働者の労働時間削減
13	なし
13	とてもむずかしい質問です。答えられません。
13	サークル等で市がリードし取り組む
13	これをやったからといって急に助け合えるわけではないので難しい。
13	きっかけが必要
13	お互い無理をせず、できること・出来ないこと、望んでいること・望んでいない事を、きちんと伝える。
13	あまり深入りしない程度にして、周りにあまりしゃべらないこと。興味本位の人がいるので